

## camera obscura

カメラ オブスキュラ (camera obscura) はラテン語で「暗い部屋」という意味の単語です。カメラ オブスキュラとも言います。素描を描くために使われた光学装置のことで、フェルメールをはじめ、17世紀ごろの画家によく用いられていたことで知られています。

部屋と同じくらいのサイズの大きな箱を用意し、片方に小さな針穴(ピンホール)を開けると外の光景の一部からの光が穴を通り、穴と反対側の壁に像を結ぶというものです。画家がこの箱の中に入り、壁に映った像を紙の上に描き移すことで、実際の光景とそっくりの下絵をつくることのできるのです。

写真技術発明にあたり重要な役割を果たした装置で、写真撮影用の機械を「カメラ」と呼ぶのはカメラ・オブスキュラに由来します。

## 観光とカメラ オブスキュラ

かつては観光地に大きなカメラ オブスキュラを作って観光客用のアトラクションとした場所もありました。現存する数少ない例では、イギリスのブリストルやエディンバラなど各地、南アフリカ共和国のグラハムスタウン、ポルトガルリスボン、キューバのハバナ、サンフランシスコなど北米の各地、ほか世界各地に大型カメラ オブスキュラがあります。

日本では、東京ディズニーシーのフォートレス・エクスプロレーション内に「カメラ オブスキュラ」の名前で設置されています。

\*参考 フリー百科事典 Wikipedia

## スミス記念堂 オブスキュラ

彦根城の堀端に建つ近代化遺産スミス記念堂を、カメラ オブスキュラにして、堂内に彦根城天守を映し出そうという計画です。

きっと、暗がりにリアルタイムに浮かびあがる、お城の風景は、時間を忘れ楽しんでいただけたらと思います。

是非、お立ち寄りください。



## スミス記念堂の中に逆さまの風景を映します。

・カメラ オブスキュラ参考 …… <http://12kai.com/obscura/index.html>

## カメラ日本伝来

世界で初めて写真の撮影に成功したのは、1816年フランスのニエプスという人物で、撮影技術の日本伝来は、1848年、長崎の商人である上野俊之丞が機材一式をオランダから輸入したことに始まります。日本において最初に撮影に成功したのは1853年来航したペリーの東インド艦隊の従軍写真家エリファレット・ブラウン・ジュニア。しかしほとんどの写真は焼失。日本人で初めて撮影に成功したのは、薩摩藩主島津斉彬です。

カメラ オブスキュラはカメラの原型です。

## デジタル ピンホールカメラで、記念写真！

幕末に伝来したカメラの技術と、最新のデジタル技術を融合したピンホールカメラで、記念写真を撮影します。幕末の写真撮影を実体験できます。

撮影データをCDに焼き付けてお渡しいたします(実費)。

## スミス記念堂のカメラ オブスキュラ開催日は、NPO法人スミス会議のHPでご確認ください。

<http://www.smith-meeting.com/>



**スミス記念堂** 昭和6年、アメリカ人牧師(日本聖公会彦根聖愛教会)であり彦根高等商業学校(現滋賀大学経済学部)の英語教師だったパーシーA・スミス氏が、両親への祈念と日米両国の交流を願い、彦根の宮大工、宮川庄助氏と協力して建てた和風礼拝堂。彦根城の意匠を取り入れた寺院風の外観と、十字架やブドウ、ハトなどキリスト教ゆかりの文様や、松竹梅など純和風の文様などが施されている。昭和初期の和風礼拝堂は全国的にも珍しく建築史的にも稀有。記念堂は平成8年、道路の拡幅工事により取り壊しの運命にあったが、市民の保存活動により解体保存され、平成19年(2007)3月再築竣工。美しい姿を蘇らせた。解体・再築費用は全て善意の募金により賄われ、現在も募金活動は続いている。

●平成8年、移築保存のため解体・保存／平成19年3月25日、再築竣工／平成19年9月21日、国の登録有形文化財となる